

幼保小の架け橋プログラムについて

現状の課題を踏まえた架け橋プログラムの必要性

【幼保小連携の成果と課題】

[成果]

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3要領・指針の整合性確保
- ・幼保小接続期の連携の手がかりとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」策定
- ・小学校との連携の取組を行っている園が約9割に上るなど、取組が進展

[課題]

- ・幼稚園・保育所・認定こども園の7～9割が小学校との連携に課題意識
- ・半数以上の園が行事の交流等にとどまり、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施が行われていない
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達目標と誤解され、連携の手がかりとして十分機能していない
- ・スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムがバラバラに策定され、理念が共通していない
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」だけでは、具体的なカリキュラムの工夫や教育方法の改善方法がわからない
- ・小学校側の取組が、教育方法の改善に踏み込まず学校探検等にとどまるケースが多い
- ・施設類型の違いを越えた共通性が見えにくい
- ・教育の質に関するデータに基づき幼児期・接続期の教育の質の保障を図っていくための基盤が弱い

→**接続期の学びや生活の基盤の育成に大きな影響**

【架け橋プログラムのねらい】

- 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムとスタートカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育（低学年）の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進
- モデル地域での実践を踏まえ、3要領・指針、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及（例：手引きや教材等の開発）
- 接続期に保育者が行っている環境の構成や子供への関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及
- 幼児期・接続期の教育の質保障のための枠組みを構築し、データに基づくカリキュラム・教育方法の改善を促進 1

架け橋プログラムの取組のイメージ

今後3か年程度を念頭に、モデル地域における先進事例の開発・実践と、全国的な架け橋期の教育の充実を並行して集中的に推進。

幼児教育推進体制等を通じた全国的な取組

- ・ 幼児教育推進体制のネットワークや、中央協議会、都道府県協議会等の機会を活用し、特別委員会の議論の成果や、議論をもとに作成された架け橋期のカリキュラムと教育方法の手引き（仮案）や参考資料等を普及。好事例を分析・展開。
- ・ 各自治体における架け橋期のカリキュラム・教育方法の充実・改善を促進
- ・ 幼保小の連携体制や、幼児教育推進体制（幼児教育センター、幼児教育アドバイザー）の設置を促進



モデル地域における開発・実践

- ・ 文部科学省委託事業「幼保小の架け橋プログラム事業」を活用して開発・実践

※次ページ参照

モデル地域における架け橋期のカリキュラム開発のイメージ

- ◆対象 5歳児～小学校1年生(架け橋期。0～18歳の学びの連続性に配慮)
- ◆開発主体 モデル地域において、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、教育委員会、子育て担当部局、教師等養成や研修に関わる大学・団体、保護者や地域の関係者、有識者等から構成されるカリキュラム開発会議を構成
- ◆開発方法 カリキュラム開発会議において、中央教育審議会の議論をもとに作成された、架け橋期のカリキュラムと教育方法の手引き(仮案)や参考資料を活用しつつ開発
モデル地域内の園・小学校において、架け橋期のカリキュラムを踏まえつつ教育課程・保育計画を編成・実施
質保障の枠組み(国)からの指摘や、各園・小学校における実践の検証結果を踏まえ、架け橋期のカリキュラムを改善
- ◆開発内容 各園・小学校における教育課程・保育計画の編成の前提となる架け橋期のカリキュラム(接続期にふさわしい活動の在り方、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育方法の改善の視点など)の開発
架け橋期のカリキュラムの実施に必要な教材や研修等の開発

モデル地域における開発・実践・検証に必要な体制のイメージ案

モデル地域の自治体における取組のイメージ

自治体：地域の全関係機関の参画による「幼保小の架け橋プログラム」の開発

○カリキュラム開発会議

【構成員】

- ・モデル地域の園・小学校 ・教育委員会、子育て担当部局
- ・教員等養成大学、架け橋コーディネーター（有識者）
- ・幼保小関係団体、保護者等地域関係者 など

【取組内容】

- 中教審の議論を元に作成された、架け橋期のカリキュラムと教育方法の手引き（仮案）や参考資料を活用しつつ、
- ・架け橋期のカリキュラムの開発
 - ・カリキュラムの実施に必要な教材や研修等の開発
 - ・国の質保障の枠組みからの指摘や各園・小学校の実践の検証結果を踏まえ改善 等

幼稚園関係団体
保育所関係団体
認定こども園関係団体
小学校関係団体
※団体間の連携の強化、団体主催の研修や会議を活用した普及啓発

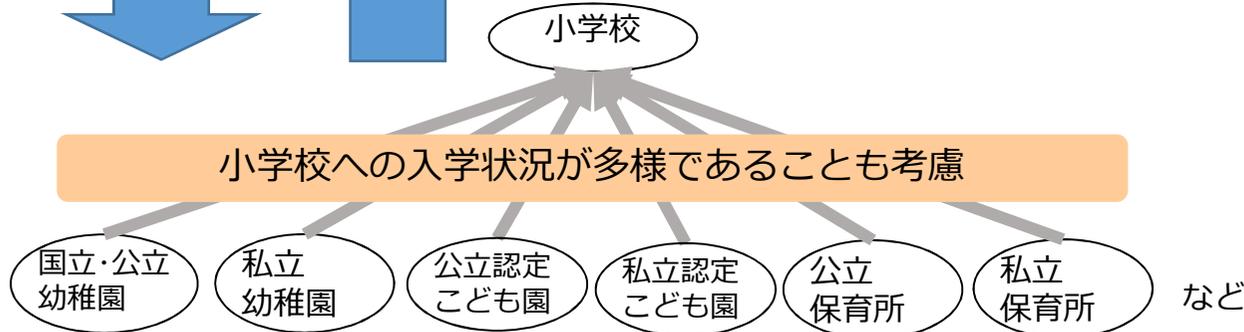
大学等

※取組への助言、養成・研修への反映等

家庭・地域

※子供の育ちの共有、各園・学校の取組への協力

架け橋期のカリキュラムを踏まえ、教育課程・保育計画を編成・実施
各園・小学校において、架け橋期の接続をコーディネートする者の明確化



幼児教育推進体制等を通じ、事業の成果を全国の取組に普及・反映

架け橋期の教育の質保障(国)

【特別委員会の議論をもとに検討】

- ・架け橋期のカリキュラム・参考資料
- ・教育方法の手引き（仮案）
- ・質保障の枠組みの検討、作成・策定等

【検証体制】

- ・「幼保小の接続期の教育の質的向上に関する検討チーム」のメンバー及び関係者 等

【検証等の内容】

- ①実態調査
モデル地域に対して実態調査を行い、各地域の成果検証
- ②改善事項の整理、取組推進
架け橋期のカリキュラム、教育方法の手引き、質保障の枠組みに関する改善事項を整理し、全国展開に向けた取組推進

質保障

モデル地域における架け橋期のカリキュラムの開発イメージ

架け橋期のカリキュラムについては、各園・小学校が共通の視点を持ち、教育課程や保育計画等で具体化しやすい工夫が必要。自治体ごとの工夫を促しつつ、例えば、下記のような共通項目を整理して示すことが考えられる。

		5歳児												小学校1年生											
項目例		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
育ってほしい姿																									
園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした単元構成		<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとしながら、5歳児のカリキュラムとスタートカリキュラムを共通の視点で策定できるように工夫</p> </div>																							
幼保小での活動																									
遊びと学びのプロセス																									
指導上の配慮事項	全体																								
	先生の関わり																								
環境の構成・環境づくり																									
家庭との連携																									
・・・																									

架け橋期の教育の質保障（国）のイメージ

検証目的： 幼保小の接続に関する実態把握
架け橋期のカリキュラムの効果検証や改善に必要なデータを取得

検証対象： モデル事業の実施地域

検証の流れ：

委託自治体	国・研究機関
	自治体が先生や保護者等を対象に実施するアンケート項目の検討・策定
アンケートを実施し、実態把握	
モデル地域における実践	
アンケートを実施し、効果検証	
	実地調査
	改善に向けた提言

※自治体間を通じた検証を可能とするため、共通のアンケート項目等を開発し活用

実地調査：

①実地調査体制

幼保小の接続期の教育の質的向上に関する検討チームのメンバー及び関係者 等

②実地調査の視点の例

- 架け橋期のカリキュラムの効果（先生の指導方法の変化、子供の変化、保護者の変化 等）
- 架け橋プログラムの改善点

架け橋期の教育の質保障の視点のイメージ案（たたき台）

項目	視点の例
架け橋期のカリキュラムに関すること	園や学校における架け橋期のカリキュラムの実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 育てたい子供像の共有 ・ カリキュラムや指導・保育の計画の一貫性や具体性 ・ 子供の引継ぎに関する取組 ・ カリキュラムや指導・保育の計画の評価・改善への取組 など
子供の姿や子供の変化に関すること	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用状況 <p style="text-align: center;">※架け橋期のカリキュラムの効果を把握するものであり、個々の子供を評価するものではないことに留意</p> など
教育のプロセスに関すること	先生と子供や子供同士の相互作用や関係性、環境の構成や環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びや学びのプロセス ・ 幼保小の先生の関わり ・ 環境の構成や小学校の環境づくり など
実施運営・構造に関すること	地域ニーズへの対応、効果的なチーム作りなどのための運営・管理 <p>【園・学校における取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小の施設間連携体制 ・ 家庭や地域との連携 ・ 組織的・計画的な園内・校内研修の相互交流 <p>【自治体における取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体内や関係機関等との連携 ・ 幼保小の合同研修等、研修に関する取組 ・ 園や学校への支援、園や学校の取組に対する評価の状況 など

架け橋期の接続の観点からの幼児教育推進体制の今後の在り方について

【現状の成果と課題】

[成果]

- ・ 幼保小接続の機運醸成
(幼保小の行き来増加、幼保小の情報共有促進、幼保小連携会議の設置 等)
- ・ 幼児教育アドバイザーの配置により、幼保小への助言・指導機会の充実

[課題]

- ・ 幼保小接続に関する内容面の資料がなく、現場への支援も幼児教育アドバイザーの経験に拠るところが大きく、幼保小接続を含め幼児教育に関するアドバイスの質のばらつきや指導内容の継続性に課題
- ・ 幼児教育アドバイザーの経歴等により、学校園種の理解度に差が出ざるを得ず、学校園種の特徴に合ったアドバイスに課題

【架け橋プログラム事業終了後】

[成果の発展]

- 幼保小の共通理解の促進により、幼保小接続の内容面の質の向上
- 幼児教育アドバイザーと幼保小で共通資料が共有されることにより、幼保小への助言・指導内容の充実

[課題の克服]

- 現場との共通資料の共有により、幼児教育アドバイザーのアドバイスの質の保障、幼児教育アドバイザーの異動による影響なく継続的な質向上の取組の充実
- 各学校園種の特徴を踏まえた共通資料の共有により、経験のない学校園種にもその特徴を理解した上でアドバイスを実施



**架け橋期のカリキュラムにより、各自治体の幼児教育推進体制への理解促進
共通資料等の全国共有により、自治体の幼児教育推進・幼保小接続の取組が点から面的な広がり**